

細菌貪食像が迅速な診断に繋がった劇症型 A 群連鎖球菌感染症 (STSS) の一例

◎安部 潤一郎¹⁾、中村 恒平¹⁾、下田 博臣¹⁾
独立行政法人地域医療機能推進機構 謙早総合病院¹⁾

【はじめに】日常検査において、末梢血塗抹標本（以下スメア）は血算と併用することで患者の病態や疾患を推定しうる重要な検査である。今回、スメアで認めた細菌貪食像が迅速な診断に繋がった劇症型 A 群溶血性連鎖球菌感染症（以下 STSS）を経験したので報告する。

【症例】生来健康な 40 代女性

【現病歴】数日前から咽頭痛があり、40℃の発熱、呼吸困難が出現した為早朝 4 時に当院救急外来を受診した。

【検査所見】CRE 3.88mg/dL, eGFR 10.6, CRP 22.50mg/dL, β 2マイクログロブリン 3153 μ g/dL, Hb 9.1g/dL, RBC 4.38 $\times 10^6$ / μ L, MCV 70.5fL, PLT 257 $\times 10^3$ / μ L, WBC 52.50 $\times 10^3$ / μ L (myelo 1%, meta 2%, stab 20%, seg 73%, Lympho 2%, mono 2%, Eosin 0%, Baso 0%), PT 37.0%, PT-INR 1.69, Fib 407.3mg/dL, FDP 咽頭粘液中 A 群連鎖球菌(+)

【経過】全身状態から DIC を伴った敗血症性ショックと判断され、メロペネムが投与された。入院当日正午頃、スメアを血液検査担当者が鏡検したところ、好中球にデーレ小体、中毒性顆粒、空胞変性などの重篤な細菌感染

症を示唆する所見を認めた。さらに注意深く観察すると、連鎖球菌と思われる細菌を貪食した好中球を認めた。主治医に報告すると同時に、細菌検査担当者へ血液培養の確認を行った。この時点では陽転していなかったが、ボトルを取り出し確認するとグラム陽性連鎖球菌が認められた。咽頭粘液中 A 群連鎖球菌迅速検査が陽性であること、ショック状態であることから STSS と診断されペニシリン G に変更された。翌日、右足関節痛が出現したため、関節液培養を施行、*Streptococcus pyogenes* が検出された。その後、血液培養は陰性化し経過良好、1 カ月半後に退院となった。【結語】今回、スメアの細菌貪食像を的確に捉えたことで適切な治療薬の選択に繋がった STSS を経験した。本症例のように敗血症を疑う場合には、通常の観察部位だけでなく標本全体を注意深く確認する必要があり、改めてその重要性を実感した症例であったと考える。今後も検査部内で連携し、迅速な情報提供ができるように努めていきたい。連絡先：0957-22-1380（内線 2343）